

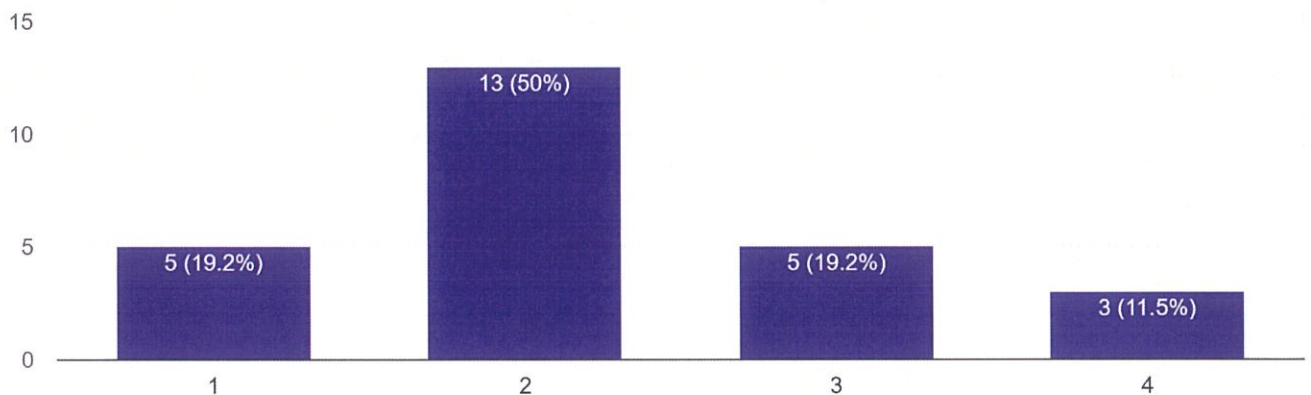
- ・ 戸外あそびや室内あそびの動線を考え、遊びの流れでさらに遊びが発展するような環境を整えていく。
- ・ 興味関心から、さらに学びを深めていくよう環境や関わり方を見直していく。
- ・ 園外での活動が、新型コロナウイルス感染症流行以前のように機会が持てなかった。
- ・ これからも、興味が持てるように関わりたい。
- ・ 子どもたち自身が自然や行事に興味を持ち、取り組んでいけるような声掛けや環境作りを行っていく。
- ・ 怪我や事故などに十分注意しながら活動、遊びの種類のレパトリーを増やせるよう考えていきたい。
- ・ スラックでの「いいね」で様々な学年の良さを知る機会があるので、活動内容によっては波及できるような仕掛けがあってもよいと感じた。
- ・ 様々な状況で、学ぶ環境を整えて実行していきたい。
- ・ 虫探しをしたいという姿が多く見られたが、猛暑続きでなかなか外に出られないこともあった為、室内に飼育ケース等で観察出来るスペースがあっても良かったのではないかと感じた。
- ・ 室内遊びでも、四季を感じるあそびをしたい。

3 【Ⅲ. 教職員体制の充実】教職員同士の協力・連携

- ・ 指導上配慮を必要とする子どもの様子や、保護者支援を要するか家庭について、常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。

【Ⅲ. 教職員体制の充実】3教職員同士の協力・連...、クラス、学年をこえて情報を共有している。

26件の回答



【上記取組の成果】

- Slack を通して情報共有したり、口頭でも伝え合うようにしたが、まだまだ話し合う機会が必要だと感じる。
- 毎月の職員会議で情報共有する事ができている。
- Slack を活用していくことですぐに対応できることから、声をかけ忘れるということがなくなった。
- 気付いたことはすぐ報告し、共有するようになった。
- その場その場の出来ごとなどは話せたが、どのような姿を目標としどのような支援をしていけば良いかなど建設的な話し合いが出来ていない。
- 支援が必要な子に対して、職員間で共有したり関わりが難しい面も見られる子もいる。寄り添いながら、話を聞くなど行った。
- クラス内での情報の共有は行う方ができた。
- 主に職員会議で話し合いを行ったが、それ以外にも都度職員間での情報共有や管理職への報告がされている。
- 上記のような子どもに対しての情報共有は出来た。
- 小さな変化等を常にクラス内で共有し合い、必要に応じて全体でも話し合いや情報共有を行うことができた。
- スラックや会議録で確認し、教職員間で話をして共有することができた。
- 共有しなければいけないことに関しては、その都度情報を共有できている。
- スラックや会議を通じ、日常的に情報共通出来るようになっている。
- 特に配慮の必要な園児はもちろん、他の園児の小さな気付きも共有する事が出来た。
- 必要な際は学年を越えた話し合いを行い、子どもにとってより良い園生活になるよう配慮、声掛けする事が出来た。
- 職員会議やスラックを使って情報共有したり、その日の園児の様子や保護者からの伝達事項等を職員間で伝え合うことができた。
- クラスでは常に情報共有できた。学年をこえての話し合う場はなかったが、スラックを通して情報共有できた。
- 細やかに家庭状況をとらえているが、保護者への関わり方や支援が未熟であり、大きな苦情を受けるケースもあった。
- 努力をした。
- 職員会議での毎月の様子についての共有に加え、子どもに合わせて細かく対応を変えながら、子どもが過ごしやすいような環境を整えていく。
- 子ども自身のことや家庭での様子、どういった部分に気がつけたほうがよいか考え、話し合いながら保育することが出来た。
- 職員間で情報共有する事ができた。
- 学年間では情報共有はしっかり出来ていた。他学年の件はスラック等は随時確認していたが、細かな所までは把握できなかった。
- 3歳未満児クラスはクラス単位での活動が主の為、一人ひとりの情報共有は少ないと感じた。
- クラスを超えて、情報共有、発信が出来た。

【上記取組の今後の課題】

- 一人ひとりが些細なことでも話しかけやすい雰囲気づくりを意識していく。
- 具体的な支援方法や関わり方について、全職員が対応できるよう情報共有できる組織作りが必要

である。

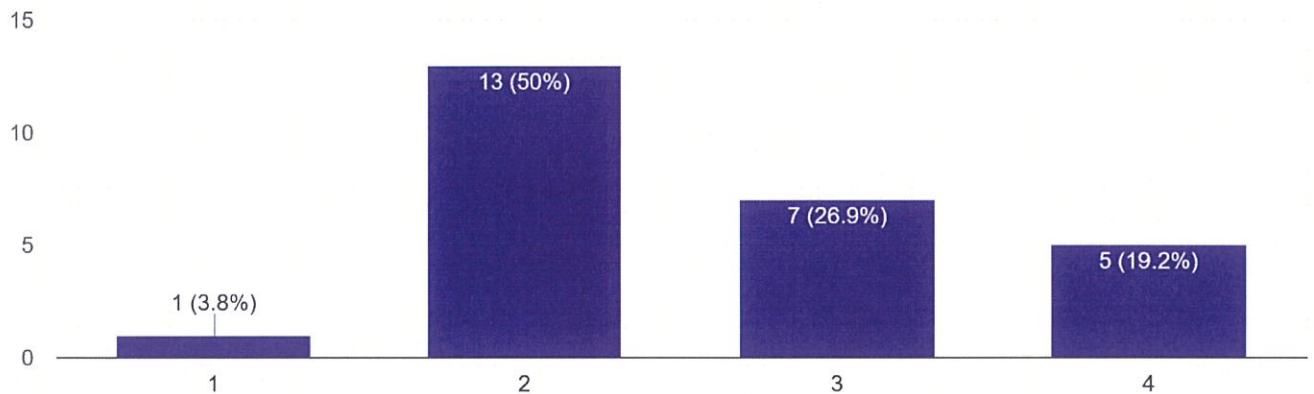
- ・子への声のかけ方や保護者とのかかわり方に十分に気を付けていき、情報を外に漏らさないようにしていく。
- ・引き続き、共有していく。
- ・教職員同士、雑談ではなく見通しを持った話し合いの場がもてるようにする。
- ・学年間で共有すると共に、細かいことも伝え合うなど今後も行っていく。
- ・未満児棟での情報共有は行うことができていたが、学年を超えて以上児棟の先生方との共有を行うことができなかった。
- ・口頭での報告では保育を離れられない場合に報告が遅れるので、もっとスラックを活用した方がよい。
- ・支援が必要な子どもに対しての専門的知識の修得を積極的に行っていきたい。
- ・兄弟関係の所でうまく情報を共有できていない所もあった為、スラックを上手に使いながら改善していく。
- ・未満児のクラスの事は分からない事も多くあったので、今後は話を聞くようにしていきたい。
- ・学年の共有で終わり他学年について曖昧な時があるため、全体での周知を徹底して行っていく。
- ・引き続き話し合うようにする
- ・全員出席ではない会議等の内容は学年や担当毎等で責任を持って他職員に伝えるようにする。
- ・保護者支援の必要がある家庭については基本的に担任が話をするが、どの職員も対応出来るくらいになるとより良い園になるのではないかと思う。
- ・支援を要する子への援助について、普段からその子の様子や行動について共有し合い、様々な場面で対応できるようにする。
- ・学年を超えての情報共有も密にしていく事が必要と思う。
- ・専門性を発揮する前に、人を助けていくという気持ちをもって関わり、手立てを考え、チームで行動する。
- ・どんな小さな事でも、コミュニケーションをとるように、心掛けたい。
- ・職員が手薄な際等には細かい対応が難しい場面がある為、職員間で声掛けを行なっていく。
- ・引き続き、保護者が安心して預けられ、子どもたちが楽しんで一日を過ごせるよう他の職員と話し合いを怠らずに連携をとっていきたい。
- ・保護者対応は、丁寧に対応するよう職員間でも配慮する。
- ・スラック等で確認はもちろん、担当の職員等との情報共有を積極的に行うよう心掛けていきたい。
- ・配慮が必要な園児こそ職員間で話し合い、指導方針を皆で揃えていくべきと考える。
- ・共有出来てない事もあったので、スラックを使いながら直していく。

4 【IV. 研修と研究】 研修・研究への取組み

- ・療育専門機関と連携をはかりながら、障がいのある子どもに対する保育のあり方について研修・研究を行っている。

【IV. 研修と研究】 4 研修・研究への取組み ・...保育のあり方について研修・研究を行っている。

26 件の回答



【上記取組の成果】

- ・園での様子を伝え、連携して支援ができていると感じる。
- ・園訪問の際に具体的な支援方法を教えていただき、実践につながっている。
- ・園訪問を通して学ぶことが多かった。
- ・対応の仕方など、参考書等を見て保育に活かせるように努力した。
- ・療育専門機関の方に見に来ていただいている。
- ・子どもの気持ちに寄り添いながら、何をしたいか見据えながら関わり、気持ちを代弁し伝えることができた。
- ・研修の中では自分の考えを持ち、発言、共有することはできた。
- ・市の発達支援センターや明峰支援学校の先生にご来園いただき、支援を要する子の様子を見ていただき、保育のあり方についてアドバイスを受け、それを基に保育を進めた。
- ・研修などを通して、学ぶことが出来た。
- ・小さな変化等を常にクラス内で共有し合い、必要に応じて全体でも話し合いや情報共有を行うことができた。
- ・様々な機関の人の話を聞き、自分自身も学ぶ中で理解が深まり、保育や関わり方をより考えながら保育を行う事ができた。
- ・定期的に園に訪問していただき、的確な助言等をいただく機会があり、自分自身への学びにも繋がっている。
- ・できてなかった
- ・会議やスラックで経過や個々の対応に対して情報を共有出来ている。
- ・支援対象児について電話ではあるが、普段の様子など連絡した。
- ・支援の必要がある子への対応を特に気をつけ、認める声掛けから掛けるように気をつけているが、研修、研究を行う事が出来なかった。
- ・専門機関の方に見ていただくことで、援助の仕方について学んだり、相談したりすることができ、保育に生かすことができた。

- ・担任の先生から話を聞き情報共有し発達を理解しながら、その都度保育に取り入れるようにした。
- ・保護者の理解を得て、療育機関につなげられたケースについては、よく応報共有が出来、園内での支援を検討し、実施できたと思う。
- ・今日のその子の様子を語り合うように、した。心の状態は、どうだったのだろう。
- ・研修を行うことは出来なかったが、子どもたちの様子見ていただき、関わり方等についての話を聞くことが出来た。
- ・実際に研修に行き、知識をつけるだけでなく他の職員からアドバイスを受け、どういった保育を行っていくべきか考えることが出来た。
- ・療育専門機関と連絡をとりあい、個々の発達に合わせて対応している。
- ・個人的には関わっておらず、自主的に行なっているだけだった。
- ・障がいのある子に対する研修・研究は行えなかったが、実際に関わる中でその子に合った接し方を工夫するよう努めた。
- ・個々の発達に合わせて、寄り添った。

【上記取組の今後の課題】

- ・担任や担当だけでなく、全職員が共通理解し、学ぶことのできる組織作りが必要である。
- ・研修があれば是非参加していきたい。
- ・研修等に参加していきたい。
- ・療育専門機関の方に見に来ていただいているが、その結果などを全職員に共通理解されていない。
- ・情報共有のあり方を考える必要がある。
- ・自分で伝えることが難しい子や優先順位がむずかしいところに対する関わりを大事にしながら今後も続けていく。
- ・障がいをのある子どもに対する保育に関して考えることは、あまりできていなかった。
- ・支援が必要な子の年齢が上がれば、支援の内容も変化してくるのでいつまでも同じ支援方法にならないようにアドバイスを受けながら見直しを図っていく。
- ・今後も積極的に研修などに参加し、障がいのある子どもなどについて学んでいきたい。
- ・兄弟姉妹関係の所でうまく情報を共有できていない所もあった為、スラックを上手に使いながら改善していく。
- ・今後も続けていく。
- ・子どもの気持ちを考える
- ・対象児が他クラスの場合は実際にその児の様子を見たり把握しておくようにする。
- ・研修の機会はなかったが、職員間で情報共有しながら支援指導員さんと連携を図っていく。
- ・共通理解を深め、都度支援の見直しを行い、保育にいかせるよう情報共有に努める。
- ・学期末面談等で、保護者が子どもへの支援の必要性を感じていないケースについても引き続き支援し、保護者の困り感や思いに寄り添い丁寧に療育機関へつないでいくことを継続したい。
- ・どうかかわったらいいか、常に話し合っておくようにしたい。
- ・今後も継続して見ていただき、連携を図りながら子どもの成長に関わっていく。
- ・引き続き、自分自身で勉強するだけでなく他の職員に相談しながら保育のあり方を考えていきたい。
- ・研修の機会はありますが、参加できる人数に限りがあるため、個々の研修としては深められていない。
- ・今後も勉強、研究は続けていく。